

平成25年度 業務実績報告及び決算の概要について

平成26年7月15日

堺市立病院機構の概要



(地独法)堺市立病院機構の概要 ①

法人の名称及び事務所の所在地

法人名 地方独立行政法人 堺市立病院機構（平成24年4月1日設立）
所在地 堺市堺区南安井町1丁1番1号

法人の役員

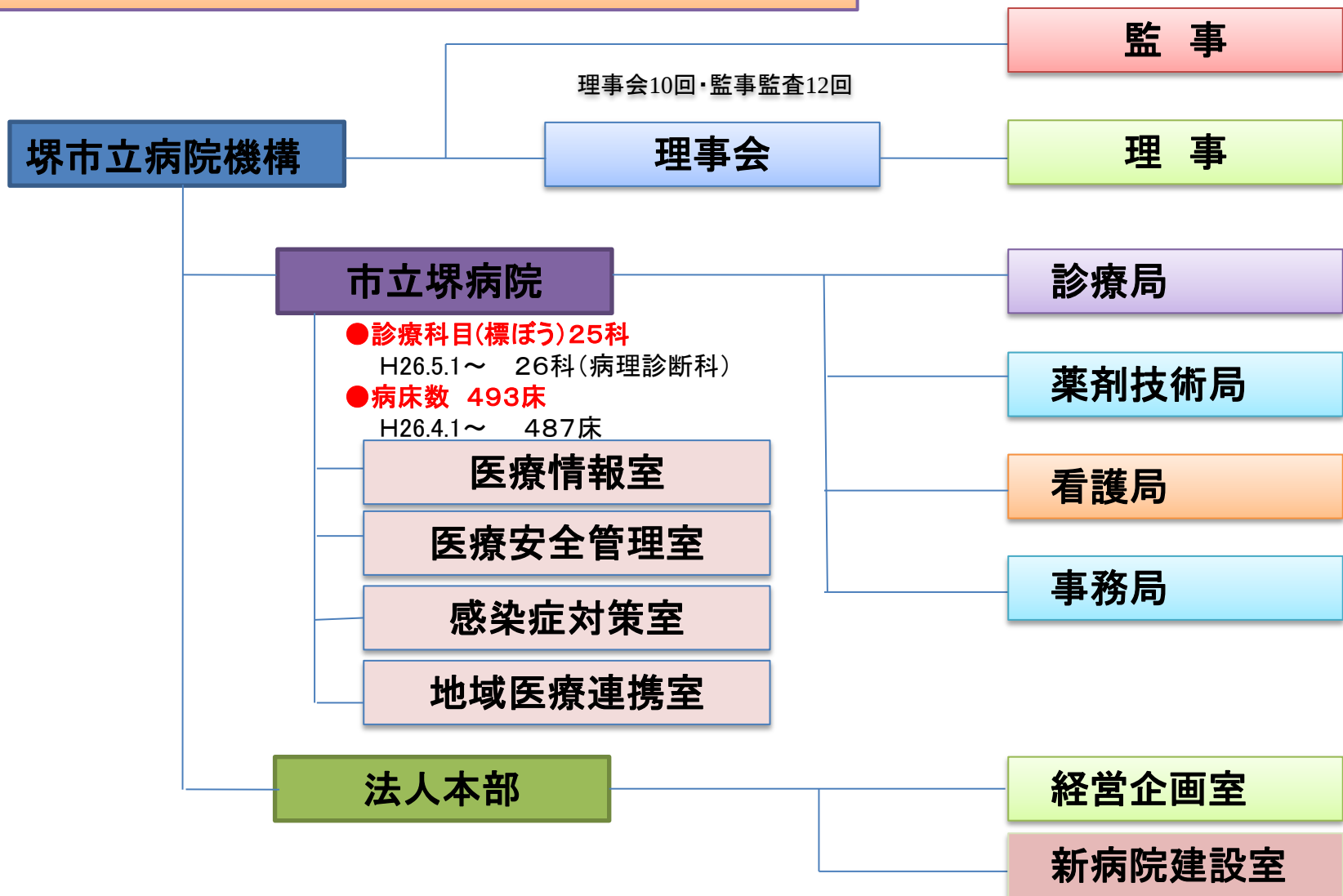
役職	定数	氏 名	任用区分	職 種	任命者
理事長	1名	北村 惣一郎	常勤	(医師)	市長
副理事長	1名	金万 和志	常勤	院長	理事長
理事	5名以内	青木隆明	常勤	副院長	
		出末 明彦	常勤	法人本部長	
		千葉 鐘子	常勤	看護局長	
		堀畑 好秀	非常勤	経営有識者	
		高杉 豊	非常勤	医療有識者	
監事	2名	中島 馨	非常勤	弁護士	市長
		伊藤 一博	非常勤	公認会計士	

*平成26年3月31日付けで青木隆明理事が退任。同4月1日付けで横田順一郎理事が就任

*他の理事・監事 平成26年4月～ 2年間再任

(地独法)堺市立病院機構の概要 ②

法人の組織



(地独法)堺市立病院機構の概要 ③



病院名	病床数
①市立堺病院	487床
②近畿大学医学部堺病院	440床
③ベルランド総合病院	477床
④近畿中央胸部疾患センター	385床
⑤大阪労災病院	678床
⑥清恵会病院	276床
⑦耳原総合病院	386床
⑧馬場記念病院	303床
⑨阪和第二泉北病院	235床

■ 病院数 45病院
うち200床以上(一般病床)の9病院

(地独法)堺市立病院機構の概要 ④

職員数(正規職員)

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
医師	69	77	68	81	86	90	91	98	98
看護師	322	354	359	378	394	416	436	460	509
医療技術	67	67	72	72	72	72	100	120	135
事務等	36	34	41	42	42	41	42	57	63
合計	494	532	540	573	594	619	669	735	805

法人の基本的理念・目標等

■市立堺病院の理念を継承

- ・地域医療機関との連携及び役割分担のもと、救急医療等の政策医療を含め、地域に必要な質の高い医療を安全に、安定的・継続的かつ効率的に提供するという公的使命を果たす。
- ・市民及び患者サービスの充実に努める。

■経営健全化の推進

- ・将来にわたり安定して医療が提供できるよう、効率的な経営による経営健全化に取り組み、経営基盤の安定化を図る。

自律的かつ健全な病院経営をめざして

法人・病院

すべての患者さんの権利と人格を尊重し、安心・安全で心の通う医療を提供します。
 (運営の土台)

理念

法人

高度で良質な
医療の提供

地域社会への貢献

健全な経営基盤づくり
 公共性、透明性、自主性、自律性
 を高める 経営形態の推進

優れた人材の育成

臨床研究の推進

運営方針

病院

- 一、思いやりとふれあいの心がかよう
人間尊重の医療サービスを提供します。
- 一、安心と満足を与え、信頼が得られる医療
サービスを提供します。
- 一、医療機関との連携を基本として、きめ細
かい医療サービスを提供します。
- 一、常に医療水準の向上に努め、専門的か
つ高度な医療サービスを提供します。
- 一、地域の中核病院としての役割を認識し、
効果的で効率的な医療サービスを提供
します。

病院憲章

全職員が一丸となって、堺市立病院機構の運営を推進

委託業者を含めた全てのスタッフの意識の変化

【意識改革スローガン】

24年度 「まず自分から変わろう **笑顔であいさつ**」 「心がけよう、**柔軟、すみやかな対応**」

25年度 「“ありがとう” **感謝**で始まる**チーム医療**」 「まず実践、**口動から行動へ**」

【経営幹部の意識の変化】 自律した経営を行っていく経営幹部の**自覚**

まずは行動し、うまくいかなければ仕切り直す → 経営者として責任ある迅速な判断・対応

- ・ 職員との対話を重視(コミュニケーションを取る)
- ・ 職員に責任感を持たせる

【部門長や職員の意識の変化】

- ・ 目標・計画・実行のPDCAサイクルの導入
- ・ 指標を測定し、改善 → 各部門長の目標達成意識の向上
 - ▶ **個人の行動を組織のゴールに合わせる**
- ・ 経営情報の院内共有 → 各部門長が部門経営に**経営的視点**を持ち始めた
 - ▶ **サービス志向の文化を創る**
- ・ ボトムアップ提案(業務改善、予算施策提案等)→ 職員の**経営的参画意識**の醸成
 - ▶ **成功を認め、讃える**

地方独立行政法人の**自立性・機動性・透明性**を活用した運営

自立性、機動性、
透明性を活かした
法人運営

信
財

地域に信頼され
続ける新病院へ

堺病院の理念

安心・安全で心の通う医療の提供

中期計画期間の経営理念

目標管理(PDCA)
システムの徹底

人
財

人への投資
(新病院に向けた種まき)
職員満足度の向上

質の向上

- * 救急・高度医療の提供
(より信頼される病院へ)
- * 多職種の連携(チーム医療)による
質の高い医療の提供
- * 患者サービスの向上

金
財

経営基盤の安定化 (持続的な病院経営、自律的な経営へ)

経常黒字6.8億円

経常黒字6.5億円

24年度 (ホップ)

25年度 (ステップ)

26年度 (ジャンプ)

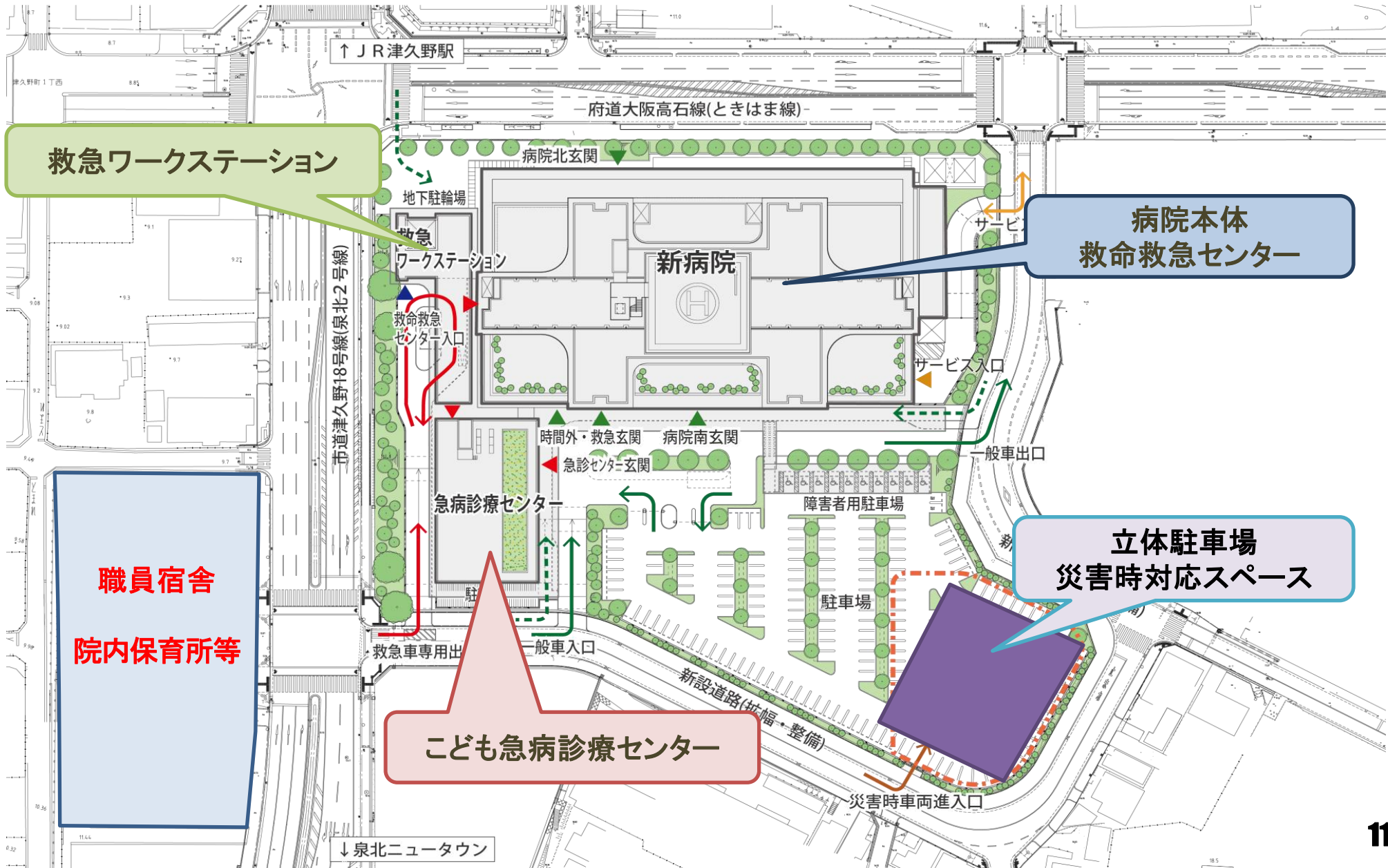
地域に**信頼**され続ける新病院へ ～**夢**に向かって～



平成27年7月開院予定
(仮称)堺市立総合医療センター



新病院整備事業の概要 ②



3つの機能

救急医療

高度専門医療

急性期医療

救命救急センター

- ・堺市で初めての3次救急施設
- ・救急専用の手術室や 集中治療室

感染症医療

災害時医療



- | | | | |
|-------|-------------------------|-----------------|------------------------|
| ・病床数 | 4 8 7 床 | ・診療科 | 2 7 科 |
| ・敷地面積 | 19,693.47m ² | ・建築面積 | 8,410.81m ² |
| ・延床面積 | 44,533.29m ² | (地上9階、地下1階(G階)) | |

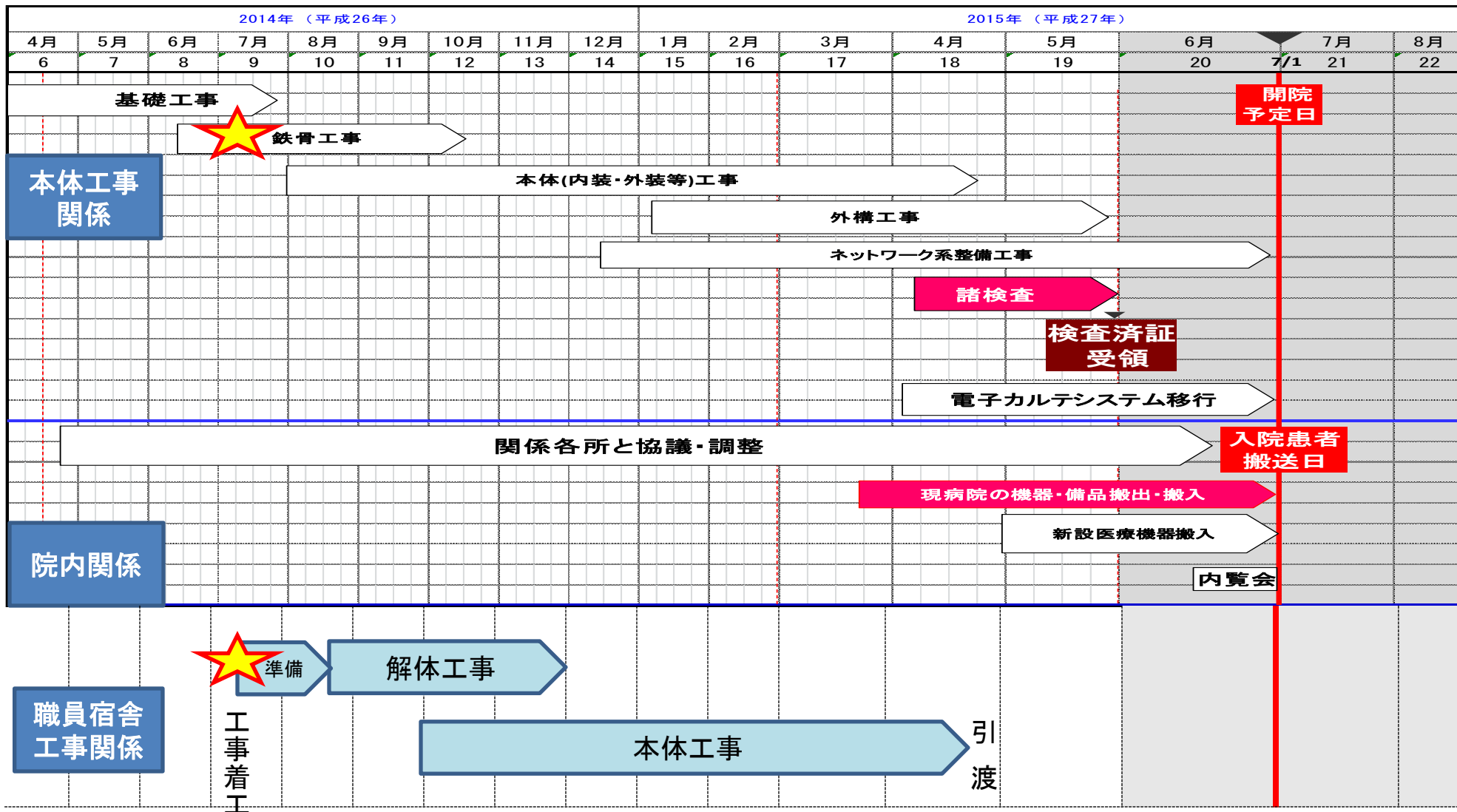
(仮称) 堺市こども 急病診療センター

- ・新病院や他の受入れ病院と連携
- ・感染症専用待合や診療室を新設

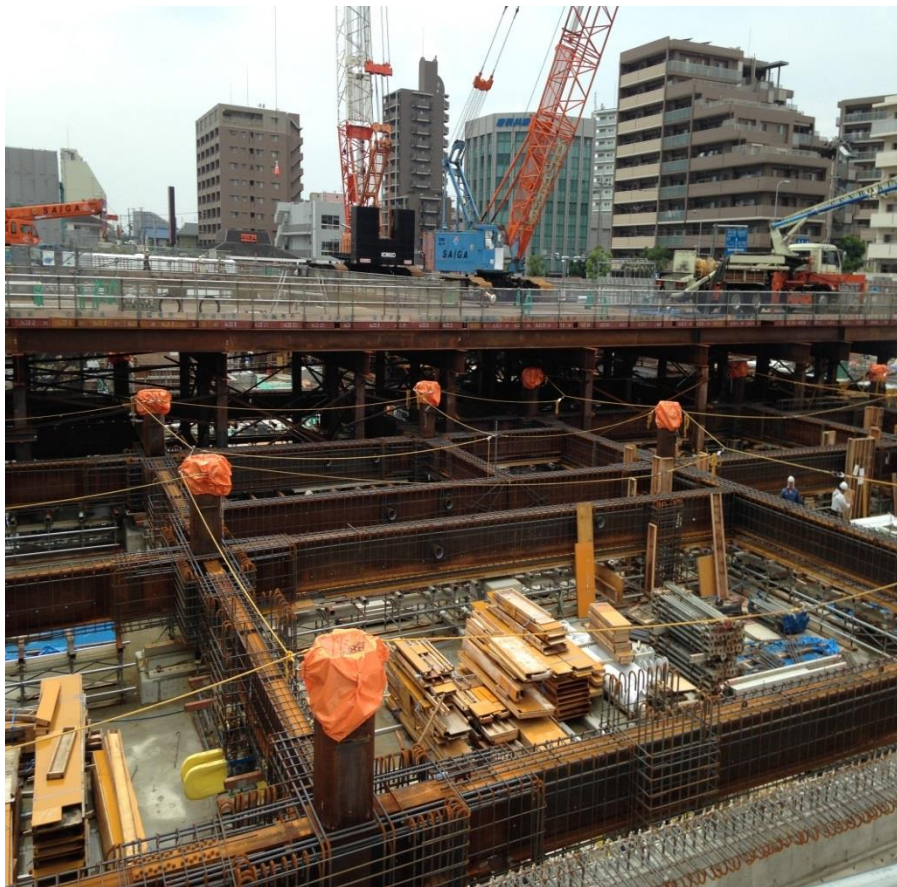
(仮称) 堺市救急 ワークステーション

- ・新病院の医師と連携した救命活動
(救急車・ドクターカー)

新病院の開院に向けて



平成26年7月14日現在



現場全景



鉄筋工事の状況

平成25年度 業務実績及び決算



平成24年度の実績評価を踏まえ、
経営幹部の**強いリーダーシップ**のもと、**職員一丸**となって取組みを推進

平成24年度評価にあたっての意見

①質の高い医療の提供～新病院に向けた着実な準備

- ◎**救命救急センターの整備**に向けて、外傷や多発外傷等の**外科系救急、手術療法**を必要とする急性疾患に対応できる体制整備の計画的な推進、**質的な変化や向上への取組み**
- ◎**周産期医療**は、大阪府母子保健総合医療センターとの**機能分担**など考慮し充実を図ること
- ◎**急性期病院**として一層の機能強化を図るために、回復期病院や在宅医療を提供する医療機関、かかりつけ医など地域の医療機関と、より**積極的な連携や棲み分け**に取り組むこと
- ◎**感染症指定医療機関**として、地域の感染症医療における**中核的な役割**を果たす

②人への投資の充実(人材の育成・確保)

- ◎小児医療、小児救急医療の充実等に対する**小児科医師の増員**

ホップからステップへの施策

■質の高い医療の提供：新病院に向けた着実な準備

◎堺市二次医療圏の中核病院として、高度専門医療を提供→重症外傷系患者の受入れ推進

◎医療環境の変化や地域ニーズに対応した医療の提供

(医療の質の向上に向けた具体的な取組み目標)

- ・救命救急センターをサポートする機能としての形成外科、整形外科の充実
- ・脳卒中患者に対する連携体制の強化(脳神経外科、神経内科、救急医療部門等)
- ・患者の体への負担の少ない内視鏡手術、鏡視下手術の推進
- ・クリニカルインディケーター(臨床指標)による目標管理の実現
- ・地域医療機関との役割分担、連携、協力体制の強化
- ・多職種協働によるチーム医療の推進等

■優秀な人材の確保・育成、職員満足度の向上

◎新病院に向けた人員体制の強化:専門技術や資格を有する医療スタッフの確保・育成

◎職員の働きやすい職場環境づくり:職員厚生会の設置、職場内保育所整備に向けた検討

■経営基盤の安定化

◎新病院の開院に向けて、引き続き経営基盤の安定化に取り組む

■患者サービスの向上

◎患者満足度調査結果等を踏まえた改善(給食、待ち時間等)

平成25年度計画目標

病床利用率	88.8%
入院単価	54,120円
外来単価	16,200円
紹介率	64.0%
逆紹介率	55.0%
手術件数	3,400件



平成25年度の実績

病床利用率	89.7%
入院単価	57,484円
外来単価	17,631円
紹介率	64.5%
逆紹介率	56.5%
手術件数	4,035件

平成25年度の実績 ～安定した経営基盤の確立に向かって～

項目	25年度	24年度	差異
入院延べ患者数 (人)	157,132	154,637	2,495
1日平均入院患者数(人)	430.5	423.7	6.8
病床利用率(480床)(%)	89.7	88.3	1.4
入院単価 (円)	57,484	56,032	1,452
入院収益	90億3,260万円	86億6,456万円	3億6,804万円
手術件数 (件)	4,035	3,527	508
外来延べ患者数 (人)	188,426	185,003	3,423
1日平均外来患者数(人)	772.2	755.1	17.1
外来単価 (円)	17,631	16,760	871
外来収益	33億2,217万円	31億 62万円	2億2,155万円
紹介率 (%)	64.5	63.9	0.6
逆紹介率 (%)	56.5	48.6	7.9

平成25年度 業務実績

平成25年度項目別取組み状況①-1

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

■救急医療（P. 7～）：重点項目

＜救命救急センターの開設に向けた体制整備＞

重症患者の受入れ推進

☆救急センターの開設

- ▶ 救急外来、手術室等の運用上の課題解決に向け、**多職種で検討**
- ▶ 救命救急センターでの受入れを想定した患者の傷病別シミュレーションの実施

☆病床管理センターの開設

- ▶ 病床コントロールを一元化し、**入院が必要な救急患者の受入れ体制を整備**

☆救急医1人、トリアージ看護師2人、脳血管内治療の専門医1人等の増

☆ドクターカーの**出動件数の増**

- ▶ 西区、高石市を管轄地域へ → 出動件数 120件 → 242件



救急医療

堺市消防局からの搬送件数

	25年度	24年度	差
搬送件数	6,295	6,285	10

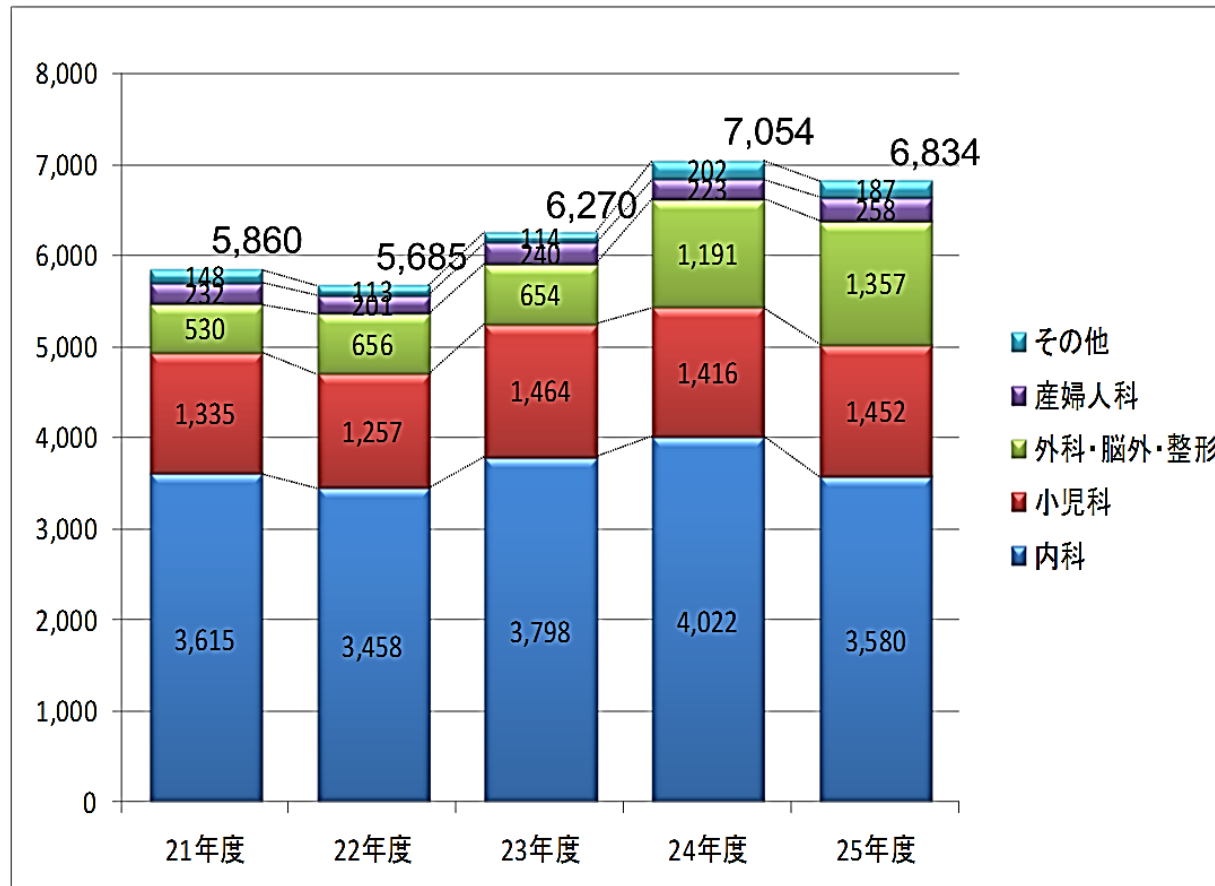
経路別救急医療受入件数

	25年度	24年度	差
ドクターカー	98	28	70
ハートコール	100	56	44
堺市急病診療センター	150	139	11
紹介(病病連携)	902	738	164

- ・堺市消防局からの受入件数は10件の増加であった。
- ・より重篤な患者の受入を重点的におこなった結果、
経路別の受入件数ではドクターカー・ハートコール・
堺市急病診療センター・他院からの紹介による救急患者が増加した。

平成25年度項目別取組み状況①-3

救急医療



ドクターカー出動件数

平成24年度 120件



平成25年度 **242件**



・約7,000件の救急搬送を受入れ

▶ 外科・脳神経外科・整形外科での受入れが増加した。

・25年度からドクターカーの対象エリアを拡充(西区・高石市)

▶ 出動件数が前年度比+122件増となり、救急医療への対応を強化した。

重症外傷等外因性疾患患者等の受入れ増加

外科系受入れの大幅増

外科・脳神経外科・整形外科(救急分) 1,191件 → 1,357件

救急手術件数の大幅増

救急手術件数 747件 → 829件

365日24時間オンコール体制の整備

脳血管外科手術 101件 → 163件

救急手術を伴った外傷系の入院も増

整形外科入院件数 60件 → 83件 外科入院件数 236件 → 281件

入院状況から見た重症患者の受入れ増

HCU(高度治療室)延べ入院患者数 3,338件 → 4,882件
→うち、重症度が最も高い患者数※ 138件/月 → 166件/月 ※HCUの入室基準を満たす傷病

☆地域連携医療機関からの救急要請の増加

☆日本救急医学指導医指定施設の指定

業務実績の自己評価

評価

5

(年度計画を大幅に上回る)

■小児医療・小児救急医療・周産期医療(P. 13～)

☆**堺市消防局管内の小児救急受入** 1,248件(管内総件数 2,201件)

☆小児疾患センター設立プロジェクトチームの設置

▶「地域小児科センター」の認定をめざし、**小児専門疾患に対応できる体制を強化**

☆産婦人科診療相互援助システムの準基幹病院

市立堺病院 小児二次救急

☆産婦人科緊急医療体制の輪番病院

《分娩件数等の増》

- ・分娩件数 447件 → 482件
- ・合併症妊娠の分娩に係る
ハイリスク分娩加算
94件 → 135件

**地域医療機関との連携・役割分担
周産期医療体制の確立**



業務実績の自己評価

評価 **4**
(年度計画を上回る)



■高度専門医療（P. 20～）

《高度で専門性の高い医療の提供》

① がん ② 急性
心筋梗塞 ③脳卒中 ④糖尿病

チーム医療
推進

①がん

☆多職種による総合的な治療の実施（手術、化学療法、放射線治療、緩和ケア等）

▶ がん入院患者数3,830人 → 3,987人

☆がん相談の実施

▶ がん相談件数 1,126件 → 2,277件

☆がん予防活動の展開

▶ 総合がん検診の充実 12.8件/月 → 19.8件/月
市民講座の開催等

☆専門資格※の取得促進

▶ 専門・認定医師 189人
専門・認定看護師 15人
指導・専門・認定薬剤師 32人 ※ がん以外も含む

☆国の地域がん診療連携拠点病院の指定申請（平成26年7月中に結果通知予定）

平成25年度大項目別取り組み状況③-2

②脳卒中

☆脳血管内治療の専門医の招聘

低侵襲な脳血管内治療が増加

脳血管内治療件数 8件 → 41件

④糖尿病

☆糖尿病予防活動の推進

(市民講座 など)

糖尿病教室患者数 212件 → 239件

③急性心筋梗塞

☆急性心筋梗塞、重症心不全、不整脈患者の受入れ増 ▶ 56件 → 100件

☆心大血管疾患リハビリテーションチームの創設 ▶ 心臓リハビリ人数
7,276人 → 8,030人

☆チーム医療の推進

- ・心大血管疾患リハビリテーションチーム、創傷排泄ケアチームの創設
- ・口腔ケアチームによる周術期の口腔ケアの実施

▶ 周術期口腔ケア件数 2,443件 → 2,836件

業務実績の自己評価

評価 **4**
(年度計画を上回る)

低侵襲手術の拡充

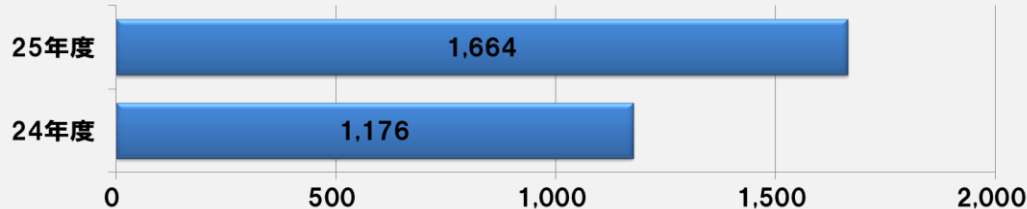
- ・平成25年度は、**総手術件数が大幅に増加**(3,527件 → 4,035件)し、これに伴い、**全身麻酔件数(手術)も増加**(1,713件 → 1,944件)した。
- ・また、平成25年度は、患者の体にやさしい**低侵襲な手術**を推進した。
鏡視下手術件数 312件 → 562件 内視鏡手術件数 1,176件 → 1,664件

手術件数(手技別)

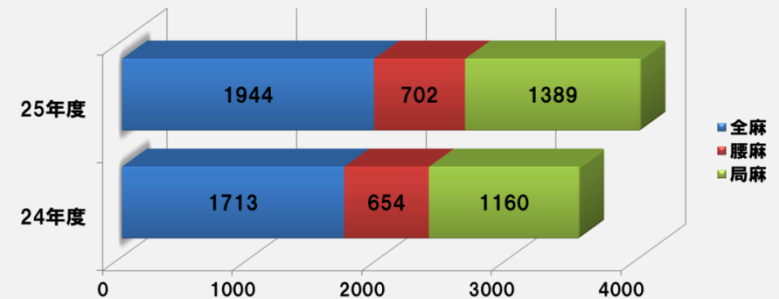
鏡視下



内視鏡



【参考】手術件数(麻酔別)



業務実績の自己評価

評価

5

(年度計画を大幅に上回る)

■安全・安心で信頼される医療の提供 (P. 38～)

☆医療安全対策の徹底

- ・**患者誤認防止**の取組み ⇒ バーコード付きリストバンド装着の徹底 (装着率97.3%)
病棟や外来をラウンドし、患者確認方法等を徹底
- ・医薬品の安全な管理や患者の服薬指導を行うため、**病棟薬剤師の配置**
- ・全職員に医療安全に関する情報等の周知、研修会等の実施

☆患者の視点に立った医療の実践

- ・患者の体にやさしい**低侵襲な手術の増加**
鏡視下手術件数 312件 → 562件
内視鏡手術件数 1,176件 → 1,664件
- ・患者、家族が安心して医療が受けられるよう、
多様な相談に対応
医療相談 9,105件 → 10,961件
がん相談 1,126件 → 2,277件
- ・**インフォームド・コンセントの徹底**

業務実績の自己評価

評価 **3**

(年度計画を順調に実施)

■患者・市民サービスの向上 (P. 51～)

☆患者サービスの向上

- ・給食内容の見直し
(選択食の種類:朝食選択できず⇒4種 昼・夕食8種→12種等)
- ・各種イベントの実施(看護フェア、小児七夕会等)
- ・入院管理センターを開設し、円滑な入院手続き等
- ・年末年始(12月29日～1月5日)における救急受入体制の充実

☆誰もが利用しやすい病院づくり

- ・ボランティアによる院内案内、車イス介助等のサポート
- ・手話や外国語(中国語)に対応できる職員の育成 等

☆待ち時間の改善・職員の接遇向上

- ・待ち時間を負担に感じさせない取組みの実施
(外来ミニ講座の開催等)
- ・職員による病院周辺のボランティア清掃活動、挨拶運動 等



業務実績の自己評価

評価 **3**

(年度計画を順調に実施)

■地域医療への貢献 (P. 61～)

地域連携の目的

より多くの患者に対して**高度で専門的な医療**を提供すること
⇒ 地域医療機関との**適切な役割分担**のもと、**連携**を推進

地域医療機関との連携強化に係る取組み

- ・ 地域医療担当の窓口業務時間の拡大
- ・ 地域医療機関からの紹介による
救急 受入れ窓口の一本化
- ・ 紹介患者専用窓口の設置
- ・ 当院の診療状況や機能を紹介する
情報誌「地域連携ニュース」の発行
- ・ 地域医療連携クリニカルパスの
積極的運用
- ・ 紹介患者の受診から入院、退院
までの一元管理等

病病連携・病診連携 の推進

★紹介率の向上

63.9%→64.5%

★逆紹介率の向上

48.6%→56.5%

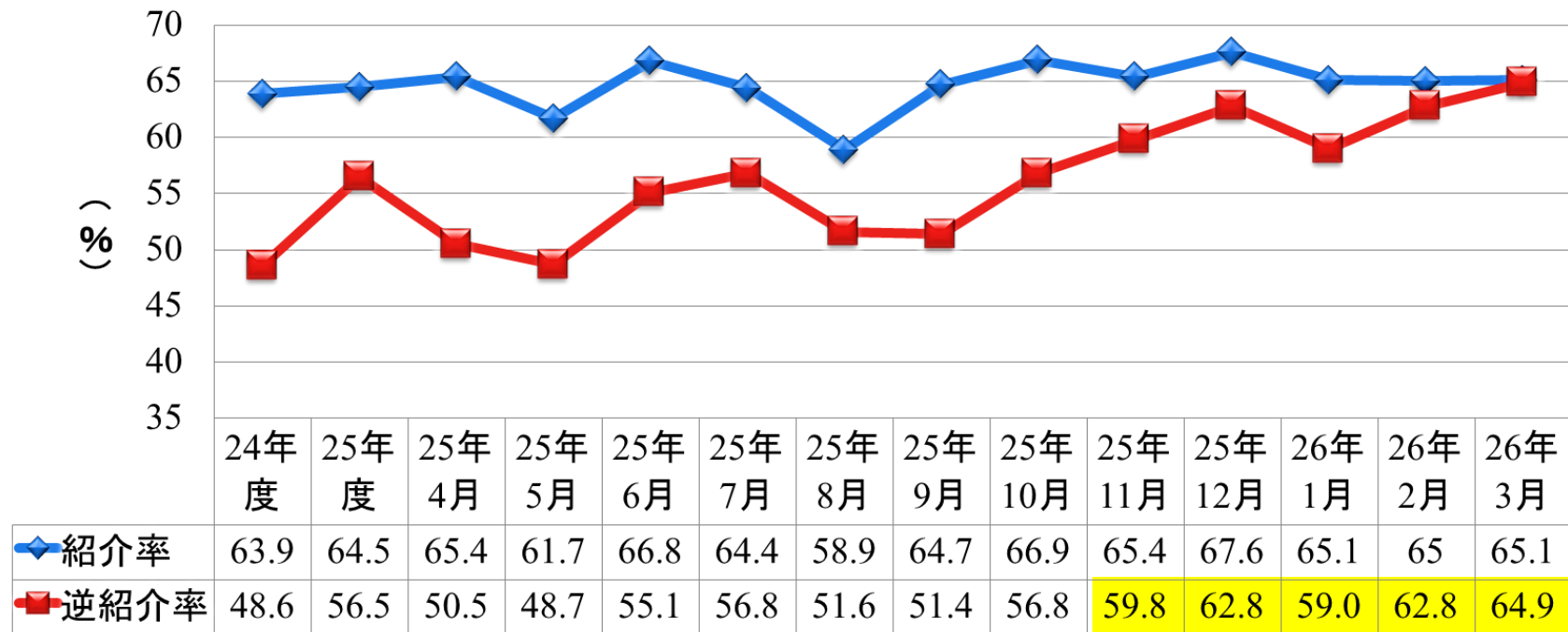
★地域支援病院登録医療
機関数が513機関増
登録数 736機関

★市内で最も多くの歯科紹介患者
を受入れ

★複数の疾病をもつハイリスク
患者の受入れ促進

平成25年度項目別取組み状況⑥-2

紹介率・逆紹介率



- 紹介率64.5%(+0.6%)逆紹介率56.5%(+7.9%)と増加している。
- 逆紹介は増加しても外来患者は増加しているので、病診連携も図れている。
- 3月は紹介率と逆紹介率はほぼ同じ水準となった。

業務実績の自己評価

評価 **4**
(年度計画を上回る)

平成25年度項目別取組み状況⑦

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

■業務運営体制の構築(P. 74～)

部門体制の強化

事務部門の強化

- ☆市派遣職員から法人職員への切り替え
(23年度:32人 → 26年度:9人)
- ☆職務経験者の採用

外部評価の活用

- ☆監事監査、会計監査人による監査
内部監査の実施
→ 指摘事項は速やかに対応

質の高い経営

- ☆PDCAサイクルの定着
- ☆他院とのベンチマーク分析の実施
- ☆職員提案制度

人員体制の強化

医療スタッフの充実

- ☆**専門医**の採用
(救急医・脳外科医 等)
- ☆**看護師確保対策**の充実
(奨学金制度創設、地方採用活動の実施)

職員満足度の向上

- ☆職員満足度調査の実施
→ 26年5月
「働きやすい環境づくりプロジェクト」を始動
- ☆**職員厚生会**「ぞうさん倶楽部」の**創設**
- ☆**院内保育所**「ぞうさん」の**開設**

効率的・効果的な 業務運営体制

業務実績の自己評価

評価

4

(年度計画を上回る)

平成25年度項目別取組み状況⑧

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

■経常収支の黒字の達成(P. 101～): 重点項目

《コンスタントな収益の確保》

収入の確保

☆重症患者や手術件数の増加

- ▶ 診療単価(入院) 56,032円/人 → 57,484円/人
- ▶ 診療単価(外来) 16,760円/人 → 17,631円/人

☆業務状況等のデータ分析

- ▶ 約10億円/月の診療収入確保 → 123.6億円/年

☆施設基準の取得

- ▶ 急性期看護補助体制加算 夜間100対1 等

費用の節減

☆後発医薬品の採用拡大

- ▶ 採用率 32.7% → 34.4%

☆診療材料、医薬品の値引き交渉

☆事務用品の共同購入

- ▶ コピー用紙、トナー 等

☆退職給与引当金額の減少

経常損益約6.5億円の黒字達成

業務実績の自己評価

評価

5

(年度計画を大幅に上回る)

平成25年度項目別取組み状況⑨

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置

■新病院整備の推進等(P. 116～)

平成27年7月開院に向けた取組み

☆新病院建設工事

▶ 平成25年11月 工事着手 → **工期短縮**

☆患者の立場に立った、安全、安心、快適な室内空間の設計

▶ モデルルームを設置し、全職員で検討

☆宿舎等の整備

▶ 設計、施工、維持管理、駐車場運営を**一括発注**

☆救急医療ネットワークの構築

▶ 当院、堺市健康福祉局、堺市消防局の3者が協力し、
断らない救急体制の確立のための協議を実施

☆連携病院の開拓

業務実績の自己評価

評価

4

(年度計画を上回る)

業務実績の自己評価

評価	第1 (23項目) 市民に対して 提供するサー ビス	第2 (15項目) 業務運営の改 善及び効率化	第3 (3項目) 財務内容の 改善	第4 (9項目) その他業務運 営に関する運 営事項	合計 (50項目)
5 年度計画を大幅に 上回って実施している。	2	0	2	0	4
4 年度計画を上回って 実施している。	7	10	1	1	19
3 年度計画を順調に 実施している。	14	5	0	8	27
2 年度計画を十分に 実施できていない。	0	0	0	0	0
1 年度計画を大幅に 下回っている。	0	0	0	0	0

平成25年度 決算

月当たり10億円を超える診療収入で
経常損益が昨年(約6.8億円の黒字)並みの
約6.5億円の 黒字(経常利益 目標値 3.0億円)
2か年累計で 約13.3億円の 黒字
2か年で中期計画を達成

貸借対照表

資産の部	
I 固定資産	100.5億円
土地建物等	32.3億円
器械備品等	22.9億円
建設仮勘定(新病院用)	44.9億円
その他	0.4億円
II 流動資産	139.9億円
現金・預金	109.4億円
未収金	27.6億円
材料	2.3億円
その他	0.6億円
資産合計	240.4億円

負債の部	
I 固定負債	186.1億円
長期債務	149.6億円
退職給与引当金	26.1億円
その他	10.4億円
II 流動負債	41.5億円
短期債務	9.9億円
未払金	25.5億円
賞与引当金	3.3億円
その他	2.8億円
純資産の部	
I 資本金	3.0億円
II 利益剰余金	9.8億円
負債・純資産合計	240.4億円

利益剰余金 H24 4.1億円 + H25 5.7億円 = 9.8億円

損益計算書

	H25	H24	差引
営業収益	140.9億円	133.8億円	7.1億円
入院収益	90.4億円	86.6億円	3.8億円
外来収益	33.2億円	31.0億円	2.2億円
その他医業収益	3.1億円	3.0億円	0.1億円
運営費負担金・補助金等	14.2億円	13.2億円	1.0億円
営業費用	131.4億円	123.8億円	7.6億円
給与費	69.2億円	67.6億円	1.6億円
材料費	31.9億円	28.5億円	3.4億円
経費	23.9億円	21.6億円	2.3億円
減価償却費	5.8億円	5.6億円	0.2億円
研究研修費	0.6億円	0.5億円	0.1億円
営業利益	9.5億円	10.0億円	▲0.5億円
営業外収益	4.8億円	4.6億円	0.2億円
営業外費用	7.8億円	7.8億円	0.0億円
経常利益 当初目標3.0億円⇒	6.5億円	6.8億円	▲0.3億円
臨時収入	0億円	0.2億円	▲0.2億円
臨時損失	0.8億円	2.9億円	▲2.1億円
当期純利益	5.7億円	4.1億円	1.6億円

経常収支比率
 中期計画期間中
 の累計が黒字
 (100%以上)
 となることが目標

医業収支比率
 103.3%

経常収支比率
 102.9%

キャッシュ・フロー計算書

I 業務活動によるキャッシュ・フロー	A	1,070,008,499円
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	B	▲8,335,320円
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	C	▲1,107,192,146円
IV 資金増加額	$A + B + C = D$	▲45,518,967円
V 資金期首残高	E	281,568,518円
VI 資金期末残高	$D + E$	236,049,551円

I 業務活動は、病院運営に伴う現金の動き

II 投資活動は、固定資産の取得や売却、資産運用などに伴う現金の動き

III 財務活動は、借入金の借入、返済などに伴う現金の動き

キャッシュフロー計算書は、現金と普通預金の動きを示している。

定期預金や譲渡性預金などの動きは、II の投資活動で示される。

摘 要	平成25年3月31日 A	平成26年3月31日 B	増 ▲ 減 B - A
現金・普通預金	281,568,518	236,049,551	▲45,518,967
うち3か月以上1年以内預金	8,000,000,000	9,000,000,000	1,000,000,000
有価証券(譲渡性預金)	2,600,000,000	1,700,000,000	▲900,000,000
現金・預金総合計	10,881,568,518	10,936,049,551	54,481,033

I 業務費用	1,183,170,005円
（１）損益計算上の費用	14,006,978,913円
医業費用	12,803,793,089円
一般管理費	338,974,091円
営業外費用	781,728,798円
臨時損失	82,482,935円
（２）（控除）自己収入等	▲12,823,808,908円
医業収益	▲12,673,144,028円
営業外費用	▲150,664,880円
（うち減価償却充当補助金相当額）	（18,012,644円）
II 機会費用	1,946,027円
地方公共団体出資の機会費用	1,946,027円
III 行政サービス実施コスト	1,185,116,032円

行政サービス実施コスト **1,185,116,032円**／堺市推計人口841,253人
 人口1人当たり **1,409円**／年（H24 1,514円／年・対前年度**▲105円**）

中期計画目標達成へ

《平成26年度計画目標は中期計画目標を上回る目標値を設定》

既に中期計画目標を達成した指標は、それを**上回る目標値**を設定し、引き続き、自律的な経営、地域医療機関との連携等をさらに推進する。

中期計画目標

病床利用率	88.8%
入院単価	53,300円
外来単価	15,300円
紹介率	64.0%
逆紹介率	60.0%
手術件数	3,400件

平成26年度計画目標

病床利用率	88.8%
入院単価	55,000円
外来単価	17,500円
紹介率	64.0%
逆紹介率	60.0%
手術件数	4,000件

◎第1期中期計画の目標達成へ

平成26年度計画 ⇒ 中期計画の最終年度

- ・平成27年7月開設の救命救急センターに向け、
三次救急対応体制の整備に重点的に取り組む
- ・新病院移転後の安定的な病院経営を行うための基盤づくりを行う

【平成26年 4月～6月の状況】

引き続き月当たり10億円を超える入院外来収益を確保

- ・地域に信頼される新病院への円滑な移行のための人材育成

平成26年度は、『職員の育成』と『働きやすい病院づくり』に重点を置き、ワーク・ライフ・バランスの推進、福利厚生の実施、職員満足度の向上等に積極的に取り組む

南大阪で一番輝く
『エクセレント・ホスピタル』を目指す